## 大淵窯跡群(B)発掘調査報告書(6)

1 9 8 7

笠間市教育委員会

## 大淵窯跡群〈B〉発掘調査報告書〈6〉正誤表

## 出土適物観察表

番号	行	Œ	10
4	6	G. O. 90	-
6	1	カット	体部外面下端部に「あた
			り」をつける
8	1	カット	体部外面下端部に「あた
			り」をつける
10	3	80%	_
13	2	多方向の静止箆削	多方向の静止箆切り調整
		り調整	
21	5	高台は「八」の字	高台は「11」の字状
		状	
23	4	体部外面は	大部外面は
23	6	端部に面をなす	端部に至をなす
25	2	70%	-
28	1	右回転ロクロ成形	右回転ロクロ
34	4	カット	口線部内面から体部外面
			にかけて

## 笠間市文化財調查報告書一覧

集録	報告書名	調査主体	発行年月日	付 記	
		調査担当	7617 1772	73 86	
1	箱田四所神社 境内古墳調査報告書	北山内村役場	昭28. 2.	茨城中学校	
	元 10.发奶豆和口目	大 森 信 英		考古学クラブ	
2	うら山古墳 石井台平安時代集落跡調査	笠間市教育委員会	昭47. 3.30	50号バイパス	
	報告書	大 川 清			
3	石井台遺跡発掘調査報告書	笠間市教育委員会	昭59.11.12		
		萩 原 義 照		予定地 	
4	上郷遺跡発掘調査概報	笠間市教育委員会	昭60.12. 1	市道改良工事	
4		萩 原 義 照			
5	笠間大淵窯跡	笠間市史編さん室	昭61. 3.31	学術調査	
		外 山 泰 久			
6	大淵窯跡群(B)発掘調査 報告書	笠間市教育委員会	昭62. 3.31	市道改良工事	
	松口首	萩 原 義 照			

## 1. 調査に至る経過

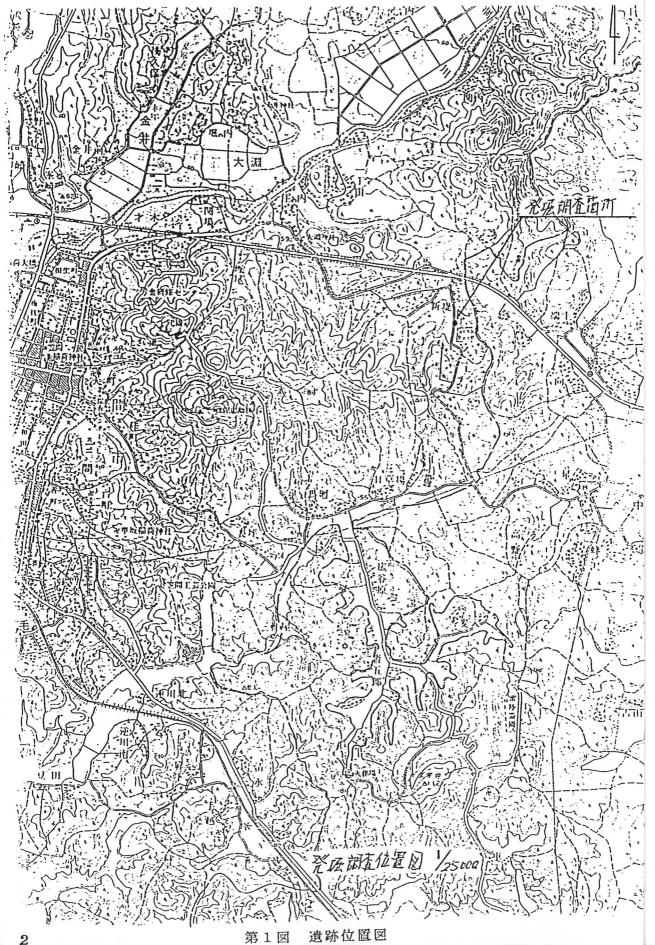
大淵窯跡群A・B・Cの所在する笠間市は、昭和33年8月隣接する町村を合併して誕生した。笠間市に確認されている須恵器窯跡群は、佐白山(182m)の北東部、友部町上市原と境して、国道50号線の両側台地斜面にA・B・C3地点の窯跡が所在する。その範囲については、明確にされていない。

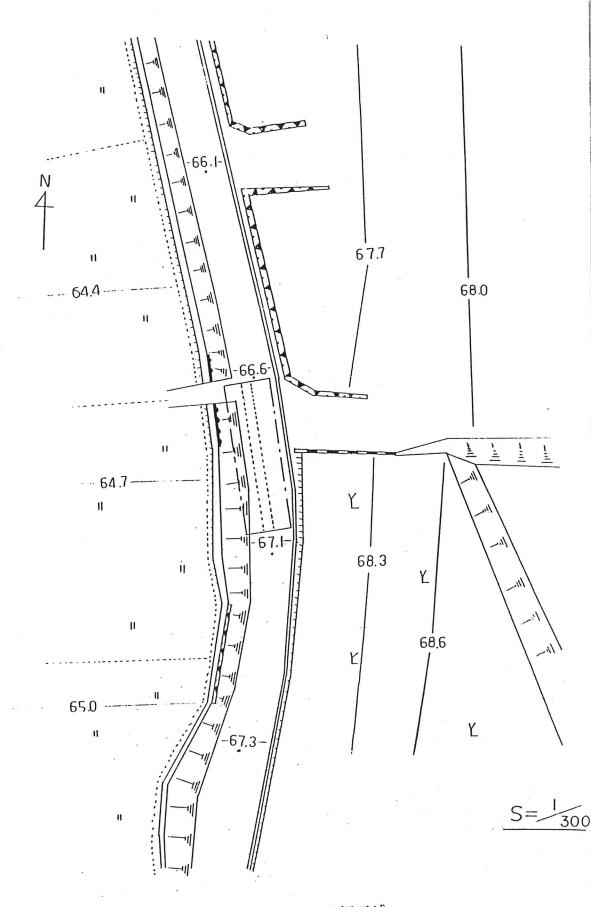
窯跡Aは、国道50号線北側の台地斜面に所在(笠間市大淵6~36外)する。ここは、笠間市史編さん古代・中世史料として、昭和61年7月から10月にかけて、学術調査による発掘調査したところである。

窯跡 B は、国道 5 0 号線南側、笠間自動車学校のある台地の南東部を通る 市道新堤-日草場線北側斜面に所在(笠間市笠間字長呂比4 1 9 4 番地先) する。

窯跡Cは、市街に向かう国道50号線左側の畑地や水田の一部に所在(笠間市大字笠間4026-2番地外)する。

今回、笠間市において、補助事業による市道新堤ー日草場線の改良工事が計画された。このため市建設課は、埋蔵文化財所在の有無とその取扱いについて、市教育委員会に照会した。これをうけた市教育委員会は、直ちに現地B遺跡を調査した。その結果、笠間自動車学校手前の現道路敷の一部は、窯跡Bの範囲内にあることを確認した。そこで、市教育委員会は、工事担当の建設課と、遺跡の取扱いについて協議し、急拠土木工事に併行して発掘調査を実施することにした。





第2図 遺跡周辺の地形と発掘区域

## 2. 発掘調査の経過

本窯跡は、市の東端長呂比に所在し、南東に面する台地斜面の裾部で市街に向かう国道50号線から左手自動車学校に通じる市道の先端部に位置している。道路の右側は水田に面し、その比高差約3m、標高67.7mを測ることができる。

窯跡は、現道路敷を含む北側傾斜部を利用して構築された登窯ではないかと思われる。現道路建設や、自動車学校敷地造成に際し、広範囲に斜面が削り取られた。

発掘現場を見学にきた自動車学校職員の話しによると、昭和48年頃、自動車学校の道路側の土止め工事のとき、焼土、炭化物に混じって多数の須恵器の破片が出土したといわれる。また、現道路北側斜面畑地や、南側法下の水田にかけて須恵器片が採集されている。以上の見地から本窯跡は、現道路沿い北側斜面に何基かの須恵器窯跡が所在することは間違いない。

今回の調査は、道路改良工事と併行しての発掘調査のため、まず、重機によって現道路面のアスファルトを掘削除去し、遺構の確認を進めた。予想としては、多分灰原の一部が存在するのではないかと思っている。何分調査範囲が小さいので、成果の期待はうすい。

〇12月12日(土) 曇

笠間市教育委員会文化財担当疑沢主査、市建設課小池主査によって、調査区を現道路面(3 m×15 m)に設定し、杭打ちを行う。

○12月15日(火) 曇調査前の遺跡及び周辺の写真撮影、地形測量、標高測定を行う。

〇12月17日(木) 晴

本日から作業開始、市教委社会教育課、市建設課の応援によって発掘作業を行う。現道路面のアスファルト掘削除去は、宮本工務店の重機(バックホー)によって、厚さ30cmのアスファルトを除去する。

◎発掘調查参加者 河村教育次長、雨海社教課長補佐、社教文化財 担当延沢主査、建設課小池主査外3名

道路表面削除後、更に1mの深さまで順次分層の削除土を行う。調査東端に青白色の粘土層、焼土確認、須恵器破片焼土内炭化物に埋土。

○12月18日(金) 晴

発掘参加者、調査員中山仁美、補助員社教姥沢主査、市史編さん室大島室長、同大高嘱託、建設課小池主査外3名と除土作業を西方に移し、土層を観察する。炭化物混在の土層中から、焼土、多数の須恵器破片(蓋・坏・盤・ツボ・カメ等)が出土。写真撮影 午後見学者 市長、河村教育次長、自動車学校職員3名

○12月19日(土) 晴

発掘参加者、社教雨海、延沢、市史編さん室大島、大高、建設課小池外 南側壁面、東側壁面のセクション図作成、写真撮影、調査区全体測量

- 〇12月20日(日) 休み
- 〇12月21日(月) 晴

発掘参加者 調査員中山仁美、社教・・・・・市史編さん室大島、大高、建設課小池外

調査区の清掃、焼土塊、周辺実測、遺物収納

○12月22日(火) 晴

調査終了に伴う全体の見直し、遺物の収納、埋め戻し。

午後、遺物の整理、報告書のまとめ等について、中山調査員文化財担当 総沢主査と打合せ。 以 上

## 3. 遺構について

本調査においては、現道路敷下の一部の発掘調査で、窯跡の全体を知ることはできない。しかし、焼土、炭化物混在の堆積土層と、須恵器破片が多数埋土されて検出されたことからみて、本遺構は、灰原の一部であると思われる。発掘を更に道路北側の斜面に広げることができれば、焚口部は近くに確認することも可能であるし、窯跡Bの性格、特徴を把握することができると考えられる。

灰原とは、須恵器清算において焚口部を開き、前面にかき出した灰が扇状に堆積されたところを呼んでいる。またの灰原には、製品の失敗品の捨場に もなっているので、ここから貴重な須恵器の破片が発見される場合もある。

遺跡の灰原から出土、採集された遺物は、すべて須恵器の破片で、器種としては、盤・坏・高台付坏・壷・変などの破片である。

遺物については、中山仁美調査員によって整理された詳細な観察記録を参考にされたい。

## 遺物について

本遺構の出土遺物は全て須恵器である。器種とその出土破片数は表 1のとおりである。また坏と高台付坏を中心とした器種の底部外面に (1) 箆書きによる「一」、「七」、「十」などの漢用数字や、「×」、「 り」などの箆記号が5種11点(うち4点については破片のために識 別が不可能)が確認された。 表 2

これら出土遺物の実年代を検討するために、比較的出土点数の多かった坏、高台付坏、盤をそれぞれ器形ごとに分類し、また坏については手法などの比較も行なった。 表 3

(2) そして、この検討に際しては、笠間市大淵窯跡群(A地点)を中心 (3) に、近接し既に調査報告されている岩瀬町堀ノ内古窯跡群や水戸市木 (4) 葉下遺跡(窯跡)を基準にした。

表1 出土器種と破片数

品	種	蓋	坏	高台付坏	盤	高盤	短頸壷	長頸壷	壷	蹇	合 計
破片数	(点)	35	62	45	51	1	7	4	49	298	552

表2 箆記号表

記号 羅種		七	+	×	N	不 明	計
坏	2				1	4	7
高台付坏		2	1	1			4
合 計	2	2	1	1	1	4	1 1

表3 グループ別による手法の比較

グル実施	手法播号	「あたり」の有無	底部の切り離し	底部の調整の有無とその調整		
А	5 6	×	回転箆切り "	<ul><li>○ 一部箆ナデ</li><li>○? 一部箆ナデか</li></ul>		
В	7 8 9 10 11	○? ○ ○? ○? ○?	n n n n	× × × ○? 一部回転箆削りか ×		
С	12 13 14 15 16	× O × O	)) )) )) ))	<ul><li>○ 静止箆削り(一方向)</li><li>○ 静止箆削り(多方向)</li><li>×</li><li>○ 回転箆削り</li><li>○ 回転箆削り</li></ul>		
D	17 18 19 20	× × × ×	" " 不明 回転箆切り	× ○ 静止箆削り(二方向) 不明 ×		

## 坏 (第6図5~20)

Aグループ 体部が丸味のある形を示す。(5・6)

Bグループ Aグループよりわずかに体部が伸びる形を示す。

 $(7 \sim 12)$ 

Cグループ 体部が外上方にまっすぐに伸びてくるが、器高が低い。(12~16)

Dグループ 体部がまっすぐに伸び、器高が増し、底径が縮小する。(17~20)

## 高台付坏 (第7図21~24)

法量の差は見られるが器形はほぼ同一であり、時期的な隔たり は、ほとんど認められない。 盤 (第7図25~30)

Aグループ 底部が扁平である。(25·26)

Bグループ 底部が深くなる。(27~30)

以上のことから本遺構である大淵窯跡(B地点)出土の坏は、AグループからDグループへと次第に変化していったと見られる。これらの坏は大淵窯跡(A地点)灰原出土の坏と器形が酷似するが、底部外面の調整を比較すると、A地点出土の坏は切り離しの際の回転箆切り痕を残し無調整のものが圧倒的に多いのに対して、B地点出土の坏はほぼ半数が静止箆削り調整や回転箆削り調整がなされている。

グループ別に見ると A グループの坏は、器形をおおまかに識別した (5) とき、木葉下遺跡 E 3 号窯出土の坏 A や、堀ノ内古窯跡群花見堂支群 (6) 1号窯出土の坏 A II と類似する。 B グループの坏は木葉下遺跡 E 6 号窯出土の坏 A と類似するが、底部の法量が E 6 号窯のものよりやや縮小されている。 C グループの坏と花見堂支群 4 号窯出土の坏 A III を比較すると、その器形は類似しているが C グループの坏の方がやや新しいものと考えられる。また、木葉下遺跡 E 5 号窯出土の坏 A と類似点が見られ、底部の調整も C グループのほとんどに、静止箆削り調整や回転箆削り調整が見られるようになる。 D グループの坏は底径がさらに縮小されてくる。これらは第6 図(18)の坏を除くと花見堂支群 C 地点出土の坏 A III と法量の上からも類似するものである。

次に高台付坏は大淵窯跡(A地点)灰原出土のものと酷似し、ほぼ平行して製作されたと推察できるものが含まれている。また、花見堂支群C地点出土の坏BI、坏BII、同2号窯出土の坏BIVと類似する。盤は坏のC、Dグループと同時期に製作されたものと思われるが、第7図(30)は口縁部を欠き形態が明瞭ではないが、盤のBグルー

(7)

プのうち最も新しいものと見ることができ、笠間市石井台遺跡出土の 盤と類似すると思われる。

以上おおまかではあるが検討を試みてきた。このことから笠間市大 淵窯跡(B地点)灰原出土の須恵器を、8世紀中葉後半から遅くとも 9世紀初頭までに製作されたものと推定する。

(中山仁美)

注

- (1)外山泰久 『木葉下三ヶ野窯跡出土の底部へラ記号』 茨城 県遺跡地名表 1983
- (2) 須恵器窯跡地でA地点は1986年に発掘調査された。B地点より北東方向直線距離にして650mに位置する。
- (3)①高井悌三郎・藤田清 「常陸堀ノ内古窯址群調査慨報Ⅰ─-花見堂古窯址─」「常陸堀ノ内古窯址群調査慨報Ⅱ─-花見堂 古窯址その他─」『甲陽史學』四 1958
   ②高井悌三郎他 「常陸国新治郡上代遺跡の研究Ⅱ」『甲陽 史学会』1988
- (4)①「常磐自動車道関係埋蔵文化財発掘調査報告書」6(木葉 下遺跡 I 窯跡)『茨城県教育財団文化財調査報告』第21集 (財)茨城県教育財団 1983
  - ②「常磐自動車道関係埋蔵文化財発掘調査報告書」8(木葉下遺跡Ⅱ窯跡)『茨城県教育財団文化財調査報告』第26集 (財)茨城県教育財団 1984
  - ③水戸市木葉下遺跡発掘調査会『常陸木葉下窯跡』― 水戸西流通センター建設工事に伴う埋蔵文化財(須恵器窯跡)調査

記錄-1986

- (5)注(4)の②と同じ
- (6)注(3)の②と同じ
- (7) 笠間市教育委員会 『石井台遺跡発掘調査報告書』(笠間焼販売センターかまげん建設地)1984

## 遺物の記載方法

- 1. 挿図、観察表、写真図版における出土遺物に付した番号は、同一番号とした。
- 2. 遺物は、1/3の縮尺とした。
- 3. 出土遺物観察表の法量 (cm) の略号は次のとおりである。

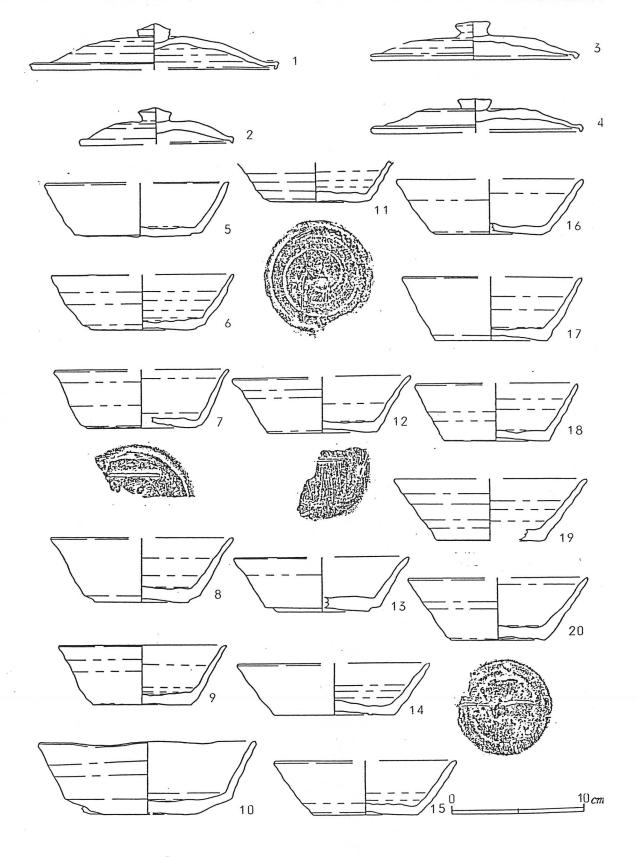
A 口 径

F つまみ径

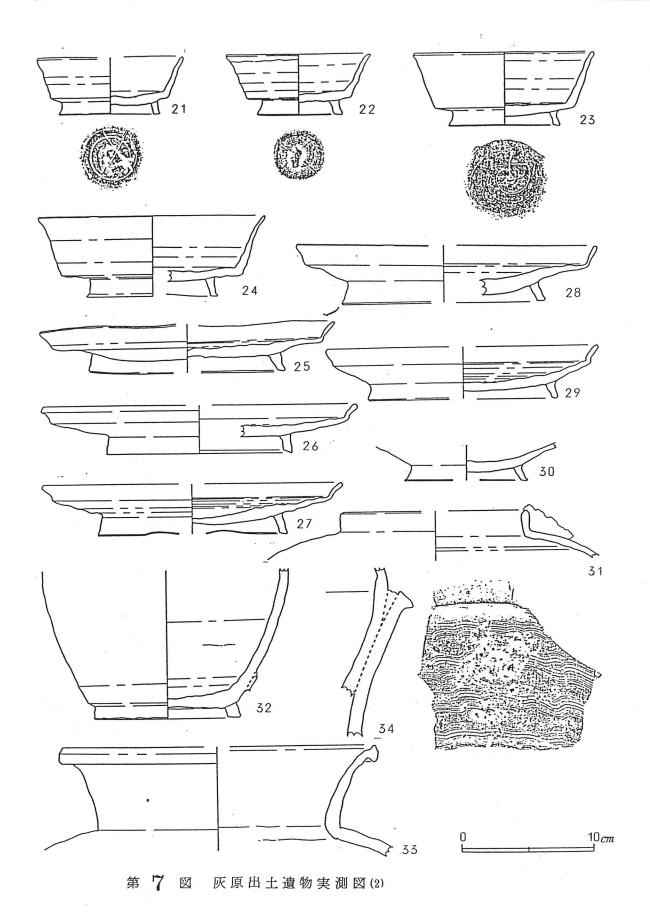
B器高

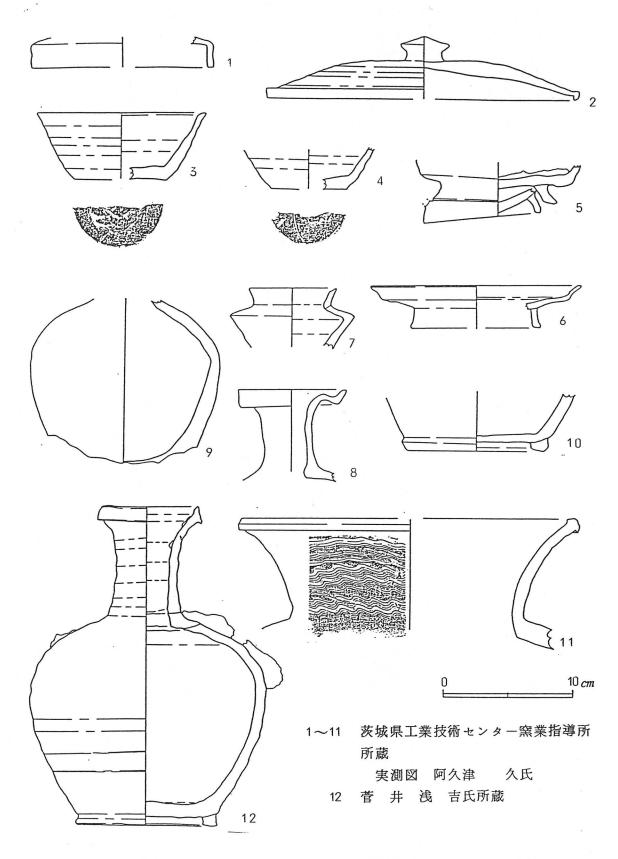
G つまみ高

- C底径
- D 高台径
- E 高台高
- ()は推定径・遺存高を表す。
- 4. 色調は、小山正忠、竹原秀雄編著『新版標準土色帖』財団法人日本色彩研究所を用いた。
  - ()は内面の色調を表す。
- 5. 備考欄の百分率は残存率である。



第 6 図 灰原出土遺物実測図(1)





第 8 図 参考資料遺物実測図(大渕窯跡群 B 地点)

## 出土道物観察表

館	%07	外面に重ね焼き 旗 25%	内・外面に重ね 焼き頂 50%	内面に重ね焼き 旗 40%	50%	20%	底部外面に館記号「一」 30%	焼台か 底部外周部に指 紋を残す。 60%	%00	口級部から体部にかけ校舎割れ
胎士·色調·焼成	徴令・容を オリーノ及由 単画 一人及色	・ 人 の 文 色 の の	普及・砂粒・ な色 単 単 単	着砂・砂粒・ 双色 中通	維砂・砂粒・ 螺虫 灰黄色(淡黄色) 不良	細砂・砂粒 にぶい赤褐色 (褐灰色) 普通	額砂・砂粒 灰色 普通	組砂・砂粒・機 褐灰色 良好 (二次焼成か) 外面に自然粕	着砂・砂色 田 田	ab・砂杏・酸 暗灰色(灰色) 良好、口黎部内 同から体部外面 にかけ黄土色の 自然治
法の特徴	み回換 は根子 が発光		右回転ロクロ成形。つまみは貼り付ける。天井部中位は回転館削り調整。他は内・外面横ナデ調整。	右回転ロクロ成形。つまみは貼り付ける。天井部中位は回転館削り調整。他は内・外面横ナデ調整。	ロクロ成形。底部は回転箆切り後、一部館ナデ調整。 他は内・外面横ナデ調整。	右回転ロクロ成形。体部外面下端部に「あたり」をつける。 底部は回転館切り後、一部ナデ調整。 他は内・外面横ナデ調整。	ロクロ成形。 底部は回転箆切り。外は内・外 面積横ナデ調整。	、右回転ロクロ成形。体部外面下 始部に「あたり」をつける。 底部は厚く作り回転箆切り。 外は内・外面横ナデ調整。	右回転ロクロ成形。底部は回転 館削り調整。 他は内・外面横ナデ調整で、ほ とんどロクロ目を残さない。	右回転ロクロ成形。底部は回転 銘切り後、一部館削り調整か。 他は内・外面横ナデ調整で体部 内面にほとんどロクロ目を残さない。
形態の特徴	天井部中央に編平な宝珠形のつまみが付き、鋭く明瞭な稜を持つ。天井部はやや丸く、口稜部との境界に明瞭な稜を持つ。口綾部は下方向に屈曲し、端部は、やや尖る。	題。天井部中央に中高かいしまなが付く。天井部につまなが付く。天井部れく口縁部との境界にかなるなるなるなるなるなるなるなるなるなるなるない。口縁部は下田へ届出し結部はやや尖田の出口に	天井部中央に偏平なつまみが付く。天井部は偏平で口縁部との境界にやや明瞭な稜を持つ。口縁部は短かく下方向に屈曲し、雄部は短かく下方向に屈曲し、雄部はやや尖る。	天井部中央に偏平なしまみが行く。天井部は偏平で口縁部との境界にやや明瞭な被を持り。口線部は下から正確なための終めに、日後時に下方向に屈曲し結部はや分と。	底部は平底。体部は内壁しつつ 立上り、口縁結部はやや丸い。	底部は平底。体部は内壁して外上方にのび、口縁部はやや薄く 結部は丸い。	展部はやや盛り上がった平原。 体部はやや外傾気味に外上方に のび、口縁部はわずかに外反し 雑部はやや丸い。	底部は中央が盛り上がった平底。 体部は内域気味に外上方にのび るが口縁部でかるく外反し、 部はやや尖る。	底部は平底。体部は外傾気味に 外上方にのび、口縁部はわずか に外反し端部は丸い。	大型の坏。底部はやや丸みを帯びた平底。体部は外傾気味に外上方にのびる。 口縁端部は丸い。全体に歪む。
洪量(cm)	(18.50) 3.50 2.55 1.20	(11.60) 2.80 2.50 1.00	15.40 2.80 2.60 1.10	15.70 2.60 2.50	13.85 4.10 9.55	(13.80) 4.20 8.05	(13.15) 4.40 (9.10)	(13.80) 4.85 7.10	12.65 4.50 7.45	16.40 5.50 12.70
種用洗	4 M F D	4 M F D	4 m r n	ABF	QWD	4 m U	AMO	A M O	<b>4</b> M O	4 0 0
器	湘	糊	桝	糊	芹	<b></b>	<b>长</b>	*	¥ 	
番号	Н	23	ю	4	ľ	O	7	ω	, o	10

## 出土類物観察表

<b>金加州</b>	東部ケ国ト 届記号 12/1 1 40%	底部外面に館記号「-1か30%		統台か 外面に漢状繊維 の痕跡 50%	%0%	45%	%08	底部外面に館記 ゆか 40%		底部外面に館記号[一] 50%
色閣· 焼成		<b>首砂・砂粒・</b> 祭 ひ色 ・ 日本・ 日本・ 日本・ 日本・ 日本・ 日本・ 日本・ 日本・ 日本・ 日		盖砂・砂粒・ 双色 良好 (二次糖成か)	番号 及 を を を を を を を を を の の の の の の の の の の の の の	着砂・砂粒 骨灰色 (オリーブ灰色) 普通	徴 を を の 選 が を を を を を を を の が の が の が の が の が が が が	番の を を を を を を が が を を が が が が が が が が が	笛珍・珍哲 黄灰色(浅黄色) ややイ原	番を 対の 対の 内内 内国に 世子 が対 世子 が対 世子 のが のが のが のが のが のが のが のが のが のが
法の結数	右回転ロクロ成形。底部は回転一緒的り。他は内・外面横ナデ調「路勢。	ロクロ成形。底部は回転銘切り 巻、一方向の静止箆削り調整。 他は内・外面横ナデ調整。	ロクロ成形。底部は回転箔切り後、多方向の静止箔切り調整。 他は内・外面横ナデ調整。	右回転ロクロ成形。底部は回転 盆切り。 内面は横ナデ調整。	右回転ロクロ成形か。 底部は回転箔切り後、回転箔削 り調整。他は横ナデ調整で、体 部内・外面にロクロ目を残さない。 口縁部外面に粘土紐巻き上げ痕を残す。	右回転ロクロ成形。底部は回転 路削り調整。 他は内・外面横ナデ調整でほと んどロクロ目を残さない。	右回転ロクロ成形。底部は回転館切り。他は内・外面横ナデ調整で、体部外面はロクロ目を残さない。	ロクロ成形。 底部は回転館切り後、二方向の館削り調整。 他は内・外面横ナデ調整。	ロクロ成形。 底部の調整は不明。 他は内・外面横ナデ調整で、ロ クロ目を残す。	右回転ロクロ成形。底部は厚く作り、回転館切り。 他は内・外面横ナデ調整で、内面はロクロ目をほとんど残さない。
	4底。体部は内壁気味にこのびる。 よのびる。 ま女損。	底部はやや盛り上がった平底。 ・ 体部は外傾気味に立ち上がるが 、 中位より外反し、口線端部はや や丸い。	底部は平底。体部はわずかに内 撃して外上方にのび、口縁部は かるく外反して始部はやや丸い。	底部は中央が盛り上がった平底で、底部と体部の境界は鋭く明瞭な角度で分かれる。 体部は外傾して外上方にのび、 口線端部はやや尖る。	やや浅い坏。底部は平底。 体部はやや内壁気味に外上方に のびる。 口縁端部は丸い。	底部は平底。体部はやや内域気 味に外上方にのび、口縁部はわずかに外倒し、端部は丸い。	成部はやや盛り上がった平底で、底部と体部の境界は明瞭な角度で分かれる。体部はやや内壁気味に外上がにのび、口縁短部はやや丸い。	底部は中央が盛り上がった平底で、底部と体部の境界は明瞭な角度で分かれる。 体部はやや内壁気味に外上方に のび、口縁端部はやや次る。	底部は平底で、底部と体部の境界は鋭く明瞭な角度で分かれる。 体部は外傾して外上方にのび、 口縁端部はやや丸い。	底部は平底で、底部と体部の境 界はやや明瞭な角度で分かれる。 体部は内壁気味に外上方にのび、 口縁端部はやや尖る。
洗量(G□)	60	(13.40) 4.20 (8.00)	(13.10) 4.10 (7.00)	(14.50) 3.90 9.10	(13.70) 4.05 7.90	(13.90) 4.15 8.10	(13.40) 4.80 8.50	(12.05) 4.35 7.90	(14.35) 4.65 (8.15)	(13.40) 4.70 7.00
拼	шU	Q m D	Q m D	4 m U	AMO	4 m O	CBA	4 m O	4 m U	Q m D
器籍		茶	-	片	<u> </u>	长	长	长	**	长
中報	= =	12	13	14	15	16	17	18	19	20

## 出土道物領際表

備考	底部外面に箆記号「×」70%	底部外面に箆記号「×」 房部内面に焚き割む	麻部外面にמ記号「七」 80%	20%	内面に重ね焼痕	40%	内面に重ね焼き 旗 25%	内面に重ね焼き 頂 40%	内面に重ね焼痕60%	30%
色關·焼成	番を みの かが 画 画	番砂・砂粒・鞣 及め 良好 体部内・外面に 対土色の自然箱	番砂・砂砂・砂砂・砂砂 ・砂砂・砂砂・砂砂・ なが・ なが・ なが・ なが・ なが・ なが・ なが・ なが・ なが・ のがが・ ながっ のがが・ のがが・ のががっ のががっ のががっ ががっ ががっ ががっ がががっ が	猫砂・砂粒 灰赤色(灰褐色) 普通	細砂・砂粒 灰赤色 (暗赤灰色) 良好 内面に黄白色の 自然釉	箱砂・砂粒・酸 類中 次色 単通	箱砂・砂粒・磔 暗赤灰色 良好 外面に自然釉	商砂・砂粒・銀 中 赤灰色 普通	着砂・砂粒 オリーン灰色 普通	額砂・砂粒 及色 良好(二次焼成)
	右回転ロクロ成形。底部は回転館切り。他は内・外面横ナデ調整で、体部内面はほとんどロクロ目を残さない。高台は貼り付ける。	右回転ロクロ成形。底部は回転路切り。他は内・外面横ナデ調整。口縁部外面に粘土紐細巻き上げ旗を残す。高台は貼り付ける。	右回転ロクロ成形。底部は回転館削り調整後、中位までかるい横ナデ調整。他は内・外面横ナデ調整。他は内・外面横ナデ調整で、大部外面はロクロ目を残さない。	右回転ロクロ成形。底部は回転館削り調整。他は内・外面横ナデ調整。高台は貼り付ける。	右回転ロクロ成形。底部は回転館削り。他は内・外面横ナデ調整。口縁部は蒋手。高台は貼り付ける。全体に丁寧な作りだが一部歪む。	右回転ロクロ成形。底部は回転館削り調整か。 他は内・外面横ナデ調整。 高台は貼り付ける。	右回転ロクロ成形。底部は回転館切り後、回転館削り調整。他は内・外面横十一調数で、内面にロクロ目を残す。口縁部と体部の境界は蔣く作る。高台は貼り付ける。	右回転ロクロ。底部は回転館削り調整。他は内・外面横ナデ調整。口縁部は薄手。高台は貼り付ける。	右回転ロクロ成形。底部は回転 箆削り調整で、内面はロクロ目を残す。 高台は貼り付ける。	右回転ロクロ成形。底部は回転 館削り調整。 他は内・外面横ナデ調整。 高台は底部に二条の沈線を入れ 貼り付ける。
形版の特徴	南台付坏。底部と体部の 明瞭な稜を持つ。体部は 峻気味に外上方にのび、 は霧く外傾し、端部はや 、高台は[11]の字状に外 開き、端部に面をなす。	小型の高台付坏。底部はやや厚く体部は内壁気味に外上方にのび、口縁部は薄く外反し、端部はやや尖る。高台は「ハ」の字状に外下方に開き、端部に面をなっか下方に開き、端部に面をなす。	底部と体部の境界は鋭く明瞭な複を持つ。体部はやや内壁気味に外上方にのび、口縁部に至って外傾し、端部はやや尖る。南台は「ハ」の字状に外下方に開き、端部に至をなす。	底部と大部の境界は鋭く明瞭な 稜を持つ。体部はやや内壁気味 に外上方にのび、口縁部は外反 して薄く、端部はやや尖る。 高 台は「ハ」の字状に下方向に開き 端部に面をなす。	体部は外反気味に外上方に大きく聞く。体部と口縁部の境界に明瞭な稜を持つ。口縁部は外反して端部はやや丸い。高台は「い」の字状に外下方に開着台は「い」の字状に外下方に開き、端部に面をなす。	内壁気味に外上方に大き、体部と口縁部は外反し、 は対い。 高台は垂下し端やくぼんだ面をなす。	体部は内壁気味に外上方に大きく開く。体部と口縁部の境界にやや明瞭な稜を持つ。口縁部は外反して端部は丸い。高台は「ハ」の字状に外下方に開く、端部に面をなす。	体部は外反気味に外上方に大きく題く。体部と口縁部は外反して、端部はやや丸い。高台は「ハ」の字状に下方向に開き始部に面をなす。	体部は内磐気味に外上方に大きく題く。体部と口縁部の境界に明確な破を持つ。口縁部は垂直に立ち上がり、直ちに外傾する。口縁部は丸い。直もに外傾する。し縁部は丸い。高台はかるくふんばり端部にやや丸い面をなす。	底部は厚く、体部は内勢気味に 外上方にのびると思われる。 高台は「ハ」の字状に外下方に開き、端部に面をなす。 口縁部は欠損。
<b>汝量(cm)</b>	A (10.85) B 4.30 D 7.50 E 1.00	A 10.85 B 4.50 D 6.25 E 1.15	A 13.40 B 5.50 D 8.35 E 1.70	A 17.50 B 6.50 D (9.90) E 1.50	A (22.05) B 3.55 D (14.70) E 1.35	A (23.50) B 3.60 D (14.00) E 1.30	A (22.40) B 3.75 D (14.20) E 1.50	A (22.20) B 4.60 D (14.85) E 1.60	A (21.10) B 4.00 D 13.85 E 1.40	B (2.50) D (9.10) E 1.20
器種	南台付坏	南台付坏	高台付坏	商台付坏	<b>8</b>	賴	類	翱	類	数 交
番号	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30

## 出土道物観察表

		<del>,</del>		•
垂	溶壁付着	強と重ね焼きか致の口縁部付着		<b>統台</b> <b>華又は茲片付着</b>
胎士•色調•焼成	無砂・砂粒 双中色 皮な 口験部内面から 外面にかけて自 然籍	a 後・移替	組砂・砂粒 灰白色 (黒褐色) 良好 口稼部内面から 外面にかけて自 然釉	猫砂・砂粒 灰色 良好(二次焼成) 口縁部内面から 体部外面にかけ
中紙の都	内・外面は横ナデ調整。全体に蒋手。	粘土紐積み上げ成形。内面に粘土細痕を残す。 上細度を残す。 内・外面は横ナデ調整。 高台は貼り付ける。	粘土紐積み上げ成形。内・外面は横ナデ調整。	粘土組積み上げ形成。外面にクン状工具による波状紋を施す。
形骸の畚数	強く内勢する体部から口縁部は垂直に立ち上がり、端部は丸い。	口縁部から頸部は欠損。体部は 内撃しつつ立ち上がる。 高台は「ハ」の字状に外下方に開 き短部に面をなす。	強く内壁する体部から「く」の字状に屈曲する口縁部が付く。 口縁端部は下方向に広がる。	口縁部の一部。
祝量(GE)	A (13.60) B (3.70)	B (11.10) D 11.05 E 1.00	A (23.40) B (7.60)	B (10.90)
器種	短頭	闺	翻	糊
報告	31	32	33	34

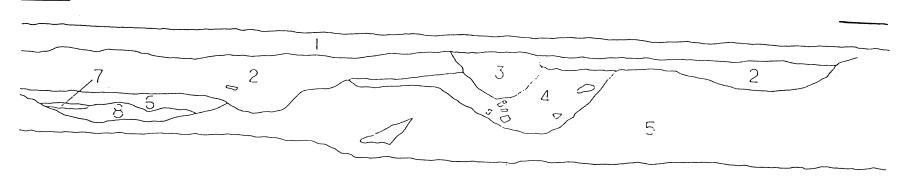
# 参考資料 遺物観察表

備者		内面に重ね焼き 痕		底部外面に箆記号	10番の童底部を 上位に重ね焼き 重ね焼きに物穀 使用					5番の高台付坏を下位に重ね焼き
胎士·色調·焼成	組砂・砂粒 黒灰色 良好 外面に自然釉	額砂・砂粒 悪灰色 良好 外面全体に自然 雑	新砂・砂粒 双色 単通	組砂・砂粒 灰色 普通	細砂・砂粒 黒灰色 良好 自然釉	組砂・砂粒・礫 暗灰色 普通	組砂・砂粒 黒灰色 良好 口縁部内面から 本部外面にかけ て自然釉	备砂・砂粒 双色 反好 内面全体と口線 部外面自然箱	細砂・砂粒 暗灰色 良好 体部外面に自然 釉	猫砂・砂粒 黒灰色 皮好 外面に自然釉
手法の特徴	ロクロ成形。 内・外面は横ナデ調整。	ロクロ成形。 つまみは貼り付ける。 天井部中位は回転館削り調整。 内・外面は横ナデ調整。	ロクロ成形。 底部は回転館切り。 内外面は横ナデ調整。	ロクロ成形。 底部は回転館切りか。 内・外面は横ナデ調整。	ロクロ成形。 自然釉のために悶整不明。 個体融着。	ロクロ成形。 内・外面は横ナデ調整。 高台は貼り付ける。	ロクロ成形。 内・外面は横ナデ調整。	粘度紐巻上げ成形と思われる。 外面は横ナデ調整。	粘土紐積み上げ成形か。内・外面は横ナデ調整。	粘土紐積み上げ成形か。 内面は横ナデ調整。 高台は貼り付ける。
形態の特徴	天井部はやや福平と思われ、口 緑部は下方向に屈曲し、端部に 面をなす。 つまみは欠損。	天井部中央にやや偏中な宝珠形のしまみが付く。天井部はやや丸い。 れい。 口縁部は下方向に短く屈曲し、 結部はやや丸い。	底部は平底。 体部はやや内撃気味に外上方に のび、口縁端部はやや丸い。	小型の坏。 底部は平底で、体部はやや内壁 気味に外上方にのびると思われる。 こ縁部は欠損。	体部は内ಳ気味に外上方にのびると思われる。 高台は「ハ」の字状に外下方に関くものと、ややふんばるもので、いずれも端部に面をなす。	体部は外反気味に外上方に大きく題く。体部と口縁部の境界にやや明瞭な稜を持つ。口縁部は外反して端部はや丸い。 高台は「い」の字状に外下方に開き端部に面をなす。底部は次損。	小型の短頸鹿。体部は外傾気味に外上方にのび、周で鋭く内傾する。 口縁部は外傾して立ち上がり、短部は今後のと がり、短部はやや尖る。 底部は欠損。	頸部はほぼ垂直に立ち上がるが、〕 上位より大きく外反する。 口縁部は外傾して短く外上方に のび、端部はやや丸い。 大部は欠損。	長頸壷と思われる。 体部のみ。 体部は内蠍しつつ立ち上がり、 肩で大きく張る。	体部は内壁しつつ立ち上がると 思われる。 高台は短く垂下し、端部にやや 丸みを帯びた面をなす。
法量(cm)	(13.90)	(23.30) 4.85 3.70 1.90	12.30 5.00 (6.95)	(2.90)	4.0.0	15.85 3.20 (9.70) 1.55	6.40 (4.50)	8.00 (6.30)	(12.35)	(4.30) 10.30 1.00
器種	亞 整 B	糊	C B B	m ∪ \	高台付拆 D E	類	短 頭 産 B	長 題 B B	御	網田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田
番号	T	8	က	4	ഗ	ω	1	ω	့တ	10

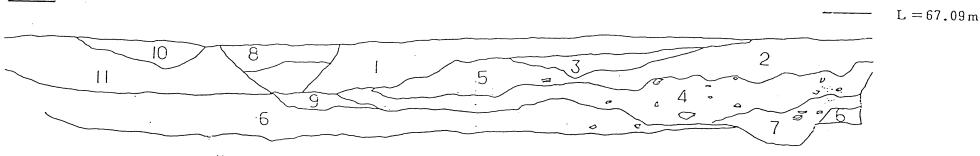
## 徼 領 杨 製 瀬 萍

;			
	備考		ロ頸部内面、体 部外面にフリモ ノ多 高台端面に取り 外しの際の路傷 80%
	胎士·色關·焼成	組砂・砂粒 黒灰色 良好	細砂・砂粒・長 石粒多 灰色(青灰色) 良好 内・外面に自然 箱
遗物领察裁	手法の特徴	粘土紐積み上げ成形。 内面は樹ナデ調整。 外面にクシ状工具による波状紋 を施す。	頭部は粘土紐巻き上げ成形。 口縁部から体部にかけ、内外面 とも横ナデ調整。底部内・外面 はナデ調整。高台は貼り付ける。 体部と頸部は接合する。 (三段構成)
物批預萃	形、観じの資格数	内 <b>峰</b> する体部から「く」の字状に 屈曲する口綾部が付き、外端部はわずかに垂下する。	体部は内壁しつつ立ち上がり肩 で大きく張る。頭部は内傾気味 に立ち上がるが中位より外反し、 口縁部に至って下方向に広がり 面をなす。高台は垂下し、端部 に面をなす。体部は一部欠損。
	<b>郑朝(gī)</b>	A 25.00 B (8.20)	A 7.4 B 24.1 D 10.8 E 0.95
	器種	飘	長 頸 張
	母母	11	12





第3図 東側(A)セクション図



第4回 東側(B)セクション図

## 東側セクションA

- 1. 黑色土
- 2. 焦土混・炭灰
- 3. 焦土混・炭灰・土器埋土
- 4. 粘 度
- 5. ローム内に粘度ブロック
- 6. ロームに粘土混
- 7. 粘 土
- 8. ローム内に黒色土混

## 東側セクションB

- 1. ローム上層からの流れ
- 層からの流れ Hue7.5YR  $\frac{5}{6}$  明褐色
- 2. ローム層に焦土混在
- " 7.5YR  $\frac{3}{2}$  黒褐色
- 3. 黒褐色土内に墨焼(混)
- " 7.5YR  $\frac{3}{2}$  黒褐色
- 4. 焦土・墨混在(少量)
- " 7.5YR  $\frac{2}{2}$  黒褐色

5. 焦土なし

" 7.5YR 4 褐色

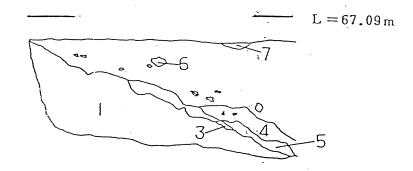
6. 粘土層

- " 7.5YR  $\frac{6}{6}$  だいだい
- 7. 粘土層彫り込み 焦土混在 土器埋蔵 粘性(弱)
- r 2.5YR  $\frac{5}{4}$  にぶい赤褐色
- 8. ローム層からの流れ
- 7.5YR 5 明褐色
- 9. 青粘土ブロック
- r 5BG  $\frac{6}{1}$  青かい色
- 10. 硬く締まっている・茶褐色 " 7.5YR  $\frac{4}{3}$  褐色
- 11. 焦土極少混 黒色 粘性(有) " 7.5YR  $\frac{5}{6}$  明褐色

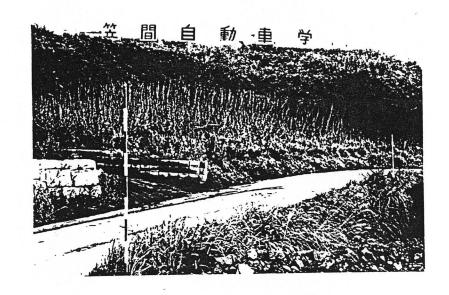
## 南側セクション

- 1. 粘土層
- 2. 焦土 硬く締まっている
- 3. 焦土 帯状に流入
- 4. 焦土・灰混在(少量)
- 5. 焦土・灰・粘土混在(少量)
- 6. 不明ブロック
- 7. 粘土流入

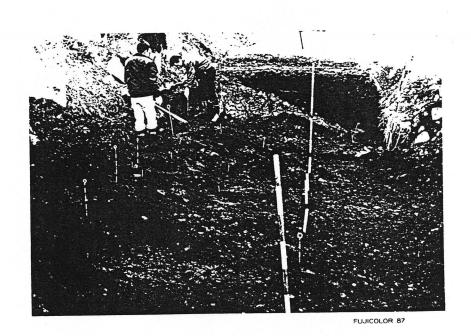




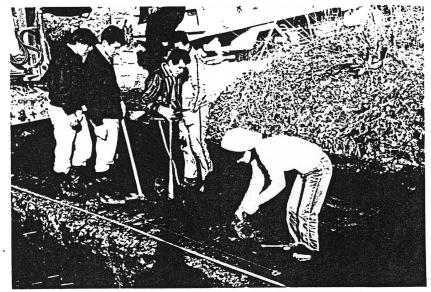
第5図 南側セクション図



大渕窯跡(B地点)の現況



灰原の状況(北側より)



FUJICOLOR 87

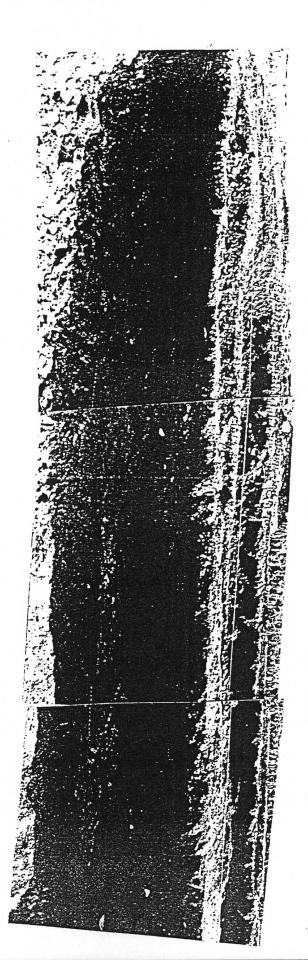
発掘調査風景

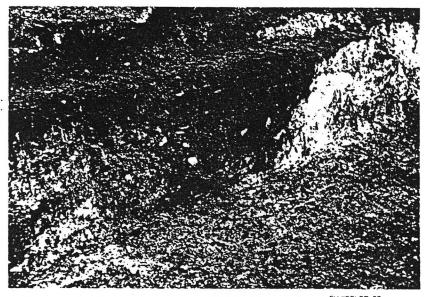


FUJICOLOR 87

遺跡出土状況(西側より)

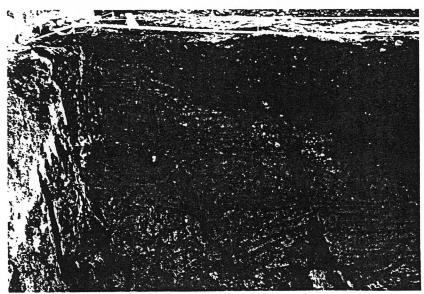




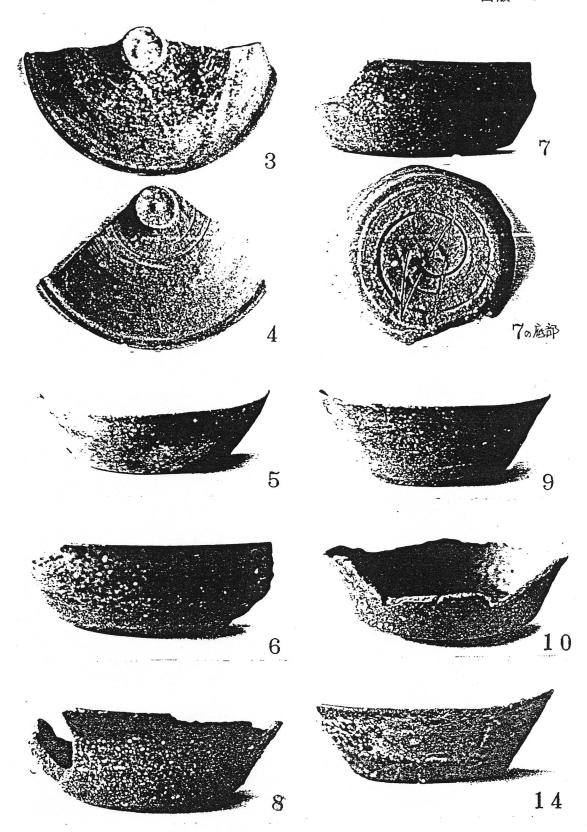


FUJICOLOR 87

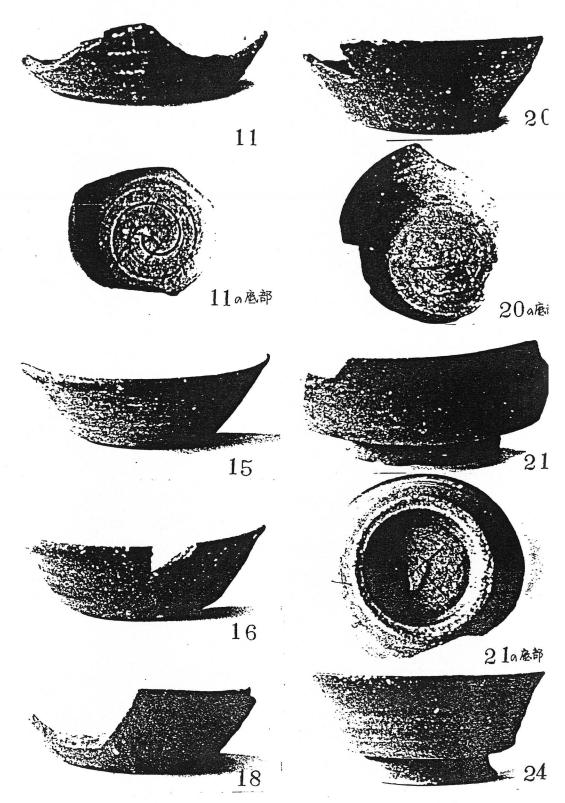
東側セクション



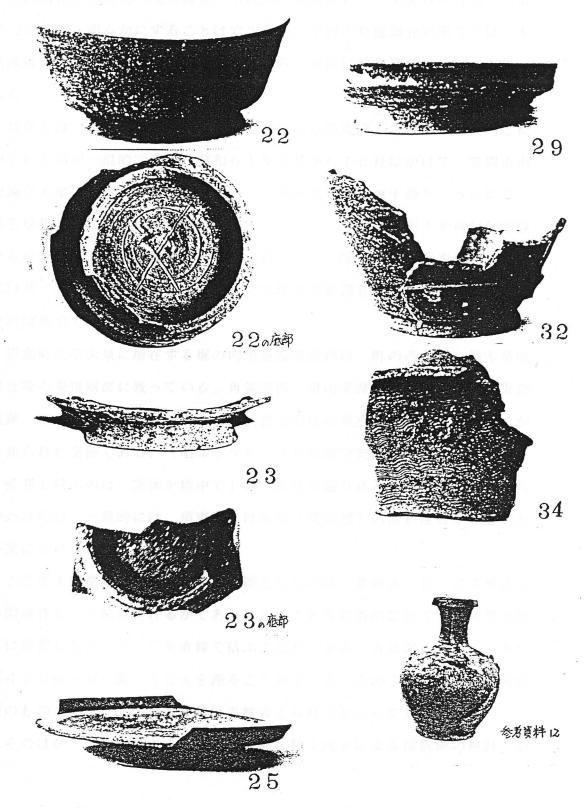
FUJICOLOR 87



灰原出土置物(1)



灰原出土置物(2)



灰原出土置物(3)

## 5. むすび

笠間市長呂比地先の現道路敷の小範囲の発掘調査で、窯跡Bの性格・特徴については、明らかにすることはできない。今回の発掘調査の限りでは、本 窯体は須恵器生産のための登窯前庭部から、灰原に続く遺構の一部とも思われる。

登窯とは、丘陵斜面に舟底状をした焚口から燃焼部・焼成部・煙道へと続いているのが一般的である。昭和61年7月から10月にかけて、笠間市市 史編さん室による学術調査が行われた大淵窯跡Aは、地下約5.5mに焚口 部を構築し更に掘り込んだ地下式窖窯で、地形・地層・風向きを検討して設 けられた特色ある須恵器窯跡として注目された。限定された調査範囲のため 焚口部・前庭部の調査に止どまり、全窯体を発掘調査することができなかっ たのは残念である。

岩瀬町大字大泉に所在する堀の内須恵器窯跡郡は、町の西北端、栃木県境の丘陵の東南裾部に残っている。角釜窯跡・扇山窯跡・花見堂窯跡・同東部窯跡・柳沢窯跡を含む窯跡群は、新治郡家関係の須恵器窯跡として、早くから知られた窯跡である。(昭和35年12月県指定史跡)

客窯と呼ぶのは、窯体を地中でトンネル状に掘り込み、構築することからいわれたが、一般的には、須恵器窯は床面(焼成部)の傾斜度合から登窯と 平窯に分けられている。

ここで大淵窯跡群研究において問題となるのは、窯跡A・B・C 3地点との関連性をどう結びつけるかである。3地点とも距離的に近く、三角形の頂点に位置したA・B・Cを直線で結ぶことができる。AB間650m・AC間420m・BC間350mを測ることができる。この3地点の窯跡を同時期のものとすれば、工人の連絡は当然考えられるところである。

そのほか、3地点の出土須恵器の成形・粘土成分による採取地の検討・製

品の耐火度や吸湿性において、窯体構造の差異等の科学的分析似寄らなければ、窯跡A・B・Cの関連性を結びつけることはできない。窯跡Aについては、出土資料の科学的分析(学習院大学)結果が出ている。窯跡B調査においては、市道の改良工事に伴う緊急調査であるので、調査期間・調査範囲・調査予算等の面から科学的処理することはできなかった。

しかし、これら3地点の須恵器窯跡群の存在は、中世における笠間窯業史 研究上極めて重要といわなければならない。

おわりに、窯跡群A・B・C 3地点の学術的総合調査の機会を笠間市によって持たれることを願って稿を了したい。

## ○別記

本調査に当って、須恵器所蔵者の菅井浅吉氏及び茨城県工業技術センター 窯業指導所・参考資料遺物実測図を提供して戴いた阿久津久氏、また、御助 言を戴いた川井正一氏に深く感謝申し上げたい。

なお、中山仁美調査員の積極的な取組みによって、短期間であるが成果を 得たことに対して心から謝意を表したい。また、市教育委員会社会教育課・ 市史編さん室・市建設課の協力を得たこと、特に調査事務などにお骨折り戴 いたダ沢主査に対しても、ここに記して感謝申し上げたい。

> (萩原 義照 稿) 以 上

## 発掘調査協力者名

調査主任

萩原義照

調 査 員

中山仁美

同補助員社教雨海弘之 蛇沢

郑 沢 幸 一 友 部 健 寿

市史大島貞二大高彰

建設課 小池 昌己 吉井順一 塩田勝己

体育館 青 木 秀 夫 海老原 和 彦

